

ヒョウタン沼

概要

ヒョウタン沼は雄阿寒岳の南東山麓に位置する沼で、阿寒湖沼群の1つです。かつてこの沼は首のところが細くなった丸い形をしていて、ヒョウタンに似ていたため、この名前がついたと言われます。最近では、ヒョウタンの形に似ていると見るには、なにがしかの想像力が必要です。

日本で最初に氷が張るところと言われ、自然のスケートリンクとしてスケート選手に利用された歴史もあります。ヒョウタン沼は、幹線道路からは遠く離れた場所にあり、深い森に囲まれています。鳥の鳴き声が聞こえ、野生動物の足跡も見られます。事実、この沼の周辺はヒグマの生息地でもあり、散策には注意が必要です。

楽しみ方

阿寒湖畔エコミュージアムセンターからヒョウタン沼へ行くには、国道241号線で弟子屈（てしかが）方面に向かい、鶴見台に向かう1093号線との交差点で右に曲がります。ヒョウタン沼は、241号線からは約1キロです。冬になると、1093号線は閉鎖されていますが、国道からスノーシューで行くことはできます。安全上の理由から、ヒョウタン沼の氷の上でウォーキングを体験したい人は、ガイドに付いてもらうことをお勧めします。